

平成28年第2回西之表市議会定例会

所信表明並びに提案理由説明



本日、ここに平成28年第2回西之表市議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位には御出席いただきまして、まことにありがとうございます。

まず、はじめに4月14日及び16日未明に最大震度7を記録し、今なお余震が続く一連の熊本地震について、被害にあわれた皆様方に心よりお見舞い申し上げたいと思います。今回の被災により関連死も含め70名近い方がお亡くなりになり、また被災住宅は全・半壊だけでも18,000棟を超え、今なお避難所生活を余儀なくされている方が1万人を超えているということで、改めて自然災害の恐ろしさを感じているところであります。

本市では、被災地の救援活動として、5月3日から5日にかけて、西之表市商工会青年部が、以前より交流のあった阿蘇青年部を訪ね、義捐金や救援物資を届けております。また、市からも5月18日から20日にかけて副市長他職員3名が熊本県の益城町に出向き、義捐金を届けるとともに、安納いもやお茶などの提供を行い、大変喜んでいただきました。震災後1月以上が経過いたしましたが、被災地の皆様はいまなお大変なご苦労が続いておるようでございます。住宅やライフラインの早急な復旧がなされ、一日も早く日常の生活が取り戻せることを願いたいと思います。

さて、政府は、先月のG7伊勢志摩サミットにおいて、世界経済の抱えるリスクを挙げ、財政出動も含めて政策総動員を提唱するとともに、消費税引き上げの実施を2年半先送りする等の政策転換を打ち出しています。来月10日は、参議院選挙も予定されておりますが、消費税問題も含め、デフレ脱却、財政再建また社会保障の財源問題、更には安保法やTPPへの対応など、明確な政策方針が示されることを期待するところです。

それでは、議案説明に先立ちまして、本年4月以降の課題の取り組みや市政を取り巻く状況などについて、ご報告したいと思います。

まず、観光・交流等の取り組みですが、今年度すでに3隻の大型客船が入港し、約1300人の観光客が訪れました。今後も6月に飛鳥II、8月にはにっぽん丸がそれぞれ再寄港する予定ですので、市民の皆さんとともに、おもてなしを充実させ、定期的な寄港へと繋げてまいりたいと考えております。

5月17日から19日にかけて、学童疎開を縁として、伊佐市の本城小学校が住吉小学校、田中小学校が伊関小学校を訪れ、交流事業が実施されました。一部では民泊体験も実施され、直接市民の方々との交流も図られたということで、姉妹都市としての絆がより深まったのではないかと考えております。

今後ですが、7月18日には、種子島カップヨットレースが予定されております。本年度は、第10回目の記念大会ということで、火山めぐり外洋ヨットレースとの連続開催や、みしまカップとの連携を図りながら準備を進めているところです。

8月21日には第47回種子島鉄砲まつりが開催されます。今回は、前日に、火縄銃の国産化に成功した八板金兵衛清定の故郷と伝えられている岐阜県関市の市民団体による鉄砲伝来をめぐる物語である創作音楽劇も予定されているところです。新たな交流でもあり、大変楽しみにしているところです。

更に、今年から毎年、東京大学の学生が夏と冬に体験活動プログラムとして2週間ほど滞在し、様々な体験及び交流や政策提言を行うことになっております。今後も更に産官学連携を推進し、交流人口拡大と地域活性化に繋げてまいります。

市民活動についてであります。

5月15日日曜日には、市民一斉の海岸清掃を実施いたしました。約1,800名の参加をいただき、お蔭をもちまして、これからの観光シーズンに向けて、来島される方々に気持ち良くお過ごし頂くことができるようになりました。

ご協力いただきました市民の皆さん、ごみの回収に携わっていただきました建設業・建築業の皆さん、また見回りなどの御協力をいただきました消防団など関係団体の皆さんに心から感謝申し上げます。

次に健康づくりについてであります。

本市は、平成27年に西之表市健康づくり推進条例を制定の上、市民の健康づくりを推進していますが、今年度は、その具体的な取り組みとして、あっぱ〜らんどに3kmと5kmのウォーキングコースを整備するとともに、5月22日に第1回あっぱ〜らんどウォーキング大会を実施いたしました。子どもから高齢者まで約140名の皆さんにご参加いただき、自然の中で体力作りを楽しんでいただきました。今後も積極的に市民の健康づくりに取り組んでまいります。

また、あっぱ〜らんどでは、多くの子供たちが自然とふれあい、喜んで楽しめる機能を高めるため、電動カートの移設など子ども広場に遊具施設等を集約し、じゃぶじゃぶ池の改修を行ってまいります。

次に、農業の状況についてであります。

まず、平成27年度農業生産実績につきましては、概算値ではありますが、総生産額は57億9千6百万円と昨年と比較しますと5億円減少し、13年ぶりに60億円を割り込む大変厳しい結果となりました。

生産概要については、基幹作物であるさとうきびが、今年の台風の影響や春先の萌芽不揃いにより、平均反収が4トン544キロ、生産量は3万1488トンと過去20年間で最低であった前年度を下回り2千6百万円の減収となりました。

園芸作物については、鳥獣被害や不安定な気候、特に1月の記録的寒波により、厳しい状況が続いており、バレイショと豆類については、生産量が大幅に減少し、生産額は前年に比較して2億1千万円の減額となりました。なお、これらについては、園芸産地再生産支援事業を活用しまして、次期作物の再生産等に向けた支援を講じ、園芸産地としての早期回復を図りたいと考えます。

種子島のブランド候補品目である安納いもの栽培面積は、横ばいではありますが、糖度・外観の品質は向上しており、今後も、品質のバラツキを更に少なくし、他産地との差別化を一層図るために「安納いもブランド推進本部」を中心に、安心・安全でおいしい安納いも生産と販売の拡大に取り組んで参ります。

一方、低迷した耕種部門と比較して、畜産を取り巻く情勢は引き続き好調であり、特に子牛生産は、平成27年度出荷頭数が1,8

55頭と減少傾向にあるものの、平均価格は昨年度より10万円高の1頭61万円と高値での推移が続いており、生産額は13億1千万円と本市全体の22パーセントを占め、生産者の表情は非常に明るいようです。

次に、鳥獣被害については、被害面積は飼料用作物が増加し、全体で389ヘクタール、前年対比133%と増加しましたが、被害金額は前年対比88.5%の7千340万円でありました。シカの有害駆除期間での捕獲頭数は1954頭で、28年度も引き続き捕獲目標を2千頭とし、「守り」の対策である侵入被害防止柵の設置と合わせて、猟友会の協力による狩猟捕獲活動への支援を行い、被害の軽減を図って参ります。

次に、国民健康保険事業についてであります。

国民健康保険特別会計につきましては、当初予算において、概算額により計上しておりましたが、平成27年度の決算状況や本年度の被保険者の所得状況などの見通しが立ったことにより、再算定を行い、今期定例会の補正予算において、本格的な予算を編成したところであります。

国民健康保険は、国民皆保険制度の中核として、市民の皆様の健康保持、健康増進に重要な役割を果たしておりますが、1人当たり

の医療費が年々増加するなど、被保険者の負担は厳しい状況となっております。

このような中、今年度の国保世帯の所得は、前年度並みに落ち着いたものの、農業所得が大幅に落ち込んでいることや、28年度の制度改正により、課税限度額が85万円から89万円へと、計4万円引き上げられること等から、このタイミングで税率を上げますと、被保険者の方々に二重・三重の負担がのしかかることとなります。また、平成30年度からは、県が国保財政運営の責任主体として中心的な役割を担うこととなっており、翌年2月頃には国保事業費納付金及び標準保険税率が公表されることとなっております。

公平性の問題はあるもののこういった状況を総合的に勘案し、やむを得ず、一般会計からの法定外繰出しを、2億4千3百万円計上し、今年度は税率改正を見送ることと判断いたしました。

今後とも、国や県の動向を注視しながら国民健康保険事業の安定的、持続的な運営と被保険者の負担の公平を期するため、なお一層の健全財政に努めてまいりたいと思います。

次に地域づくりについてであります。

地域おこし協力隊については、現時点で安納、国上、古田、現和への配置を完了いたしました。各校区の皆様の意見もお伺いしながら

ら、今後も残りの地域への配置に取り組んでいきたいと考えております。

地域の状況に関しましては、中割や立山など小規模な校区では、組織体制の維持も難しく、多くの課題が見受けられます。

そういった地域に対しましては、地方創生の交付金等で予算措置をするとともに、今回の補正においても、国の予算を活用し、中割校区の鴻峰小学校跡地において、地域の拠点を整備し、地域外との交流事業や高齢者支援、特産品づくりなどの取り組みを予算計上いたしております。

地域の皆さんと昨年より話し合いを重ね、作り上げてきた事業計画案でもありますので、是非とも、持続可能な地域づくりが実現できますよう、一緒になって取り組みたいですと考えております。

つづいて、防災対策についてであります。懸案でありました榕城分団・女性分団詰所建設につきまして、保健センターすこやか東側の駐車場を適地と決定し、年度内建設に向け準備を進めてまいります。これにより、市の中心的分団の出動態勢が充実し、地域の消防力の強化が期待できると考えております。

次に、長期振興計画及び地方創生「まち・ひと・しごと総合戦略」上の重点課題となっております、事業についてでございます。

まず、にぎわい創出についてですが、3月末に、にぎわい実行委員会より、「まちなかにぎわい創出2020プロジェクト提案書」が出され、これまでの活動を振り返り今後5年間の中で取り組んでいく方向性が提案されてきております。今後更に実行委員会はもとより、より広い商店街の皆さんとも情報の共有や意見交換も行い、実証を繰り返しながら、にぎわい創出に取り組んでまいります。

その一つになりますが、平成26年度より取り組んでいる「たねがしま安納いもスイーツサミット」を、今年は7月16日より開始いたします。観光客や住民の交流によるにぎわいの実証でもございますので、たくさんの方々が参加をされ、人の流れが生み出されていくことを期待しております。

また、空き店舗や周辺の観光資源も有効に活用し、広く中心市街地の活性化を図るため、将来に向けて、魅力ある観光地づくりの視点も加え、様々な団体と連携し組織づくりを行い、検討を重ねながら、必要な整備を計画的、年次的に進めてまいります。拠点施設については、これまでの様々な議論を踏まえつつ、市街地や市全体における役割を明確にしつつ、活用のあり方やその必要性についても、広く議論を深めてまいりたいと思います。

更に、昨年度の地方創生関連事業で実施しました高等教育機関の設置可能性の調査・研究についても、3月末に報告を受けたところでありますが、現時点では、経営の採算性や卒業後の社会的需要を踏まえて、公立の短期大学で看護科という分野で、一定の可能性が

示されております。しかしながら、今後様々な成立条件についても、その可能性又は手法等について、精査していく必要があり、更に具体的な調査・検討を進めてまいります。

また、分散型エネルギーについては、バイオガス、木質チップあるいは風力、水力等の可能性について、一定調査を行ってまいりましたが、まだ、課題が多いのが現状であり、今後とも可能性や有効性について、より具体的な検討を進めてまいります。

いずれの課題についても、地域経済や市民の皆さんの生活に深くかかわる問題でもございますので、市民の皆さんと一緒に議論を重ねながら進めてまいります。

情勢の最後となりましたが、馬毛島の問題であります。ツープラスの会見以降丸5年目を迎える今年、様々な動きが見られます。

様々な情報に注視しながら、防衛省の現段階の考え方を確認しておく必要があると思っておりますので、意見交換の場の設置に努め、情報収集を行い、今後の対応を協議してまいります。

それでは、本日提案いたしました議案について御説明いたします。本定例会に提案いたしました議案は、西之表市税条例等の一部を改正する条例など条例の一部を改正する専決処分報告3件、平成二十

七年度西之表市一般会計補正予算など補正予算の専決処分報告6件、二十七年度西之表市一般会計繰越明許費繰越計算書の報告など繰越関係の報告2件、西之表市教育長の職務に専念する義務の特例に関する条例の制定の条例議案1件、辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定議案1件、平成二十八年度西之表市一般会計補正予算ほか特別会計等補正予算議案5件の合計18件であります。それでは、本日提案いたしました議案について御説明いたします。

主な議案について御説明いたします。

議案第35号は、法律の改正に伴い、教育長の職務専念義務の特例について定めようとするものです。

議案第36号は、「西之表辺地に係る総合整備計画」が平成27年度で終了したため、法律に基づき、新たに平成28年度から平成32年度までの計画を策定し、公共的施設の整備を推進しようとするものです。

議案第37号から議案第41号は、平成28年度西之表市一般会計及び特別会計等の補正予算であります。

一般会計補正予算の主なものは、国民健康保険特別会計への繰出金二億二千二百四十八万六千円、榕城分団・女性分団詰所整備事業に九千七百二十五万六千円、バレイショ、豆類等園芸農家の再生支援として農業振興費に三千八百八万九千円、中割地区の小さな拠点整

備として二千二十五万円、そのほか、各費目に4月1日付け人事異動に伴う人件費を計上しております。

この結果、歳入歳出予算の総額に3億七千七百五十四万三千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ九十九億一千六百五十四万三千円とするものであります。

市民の皆様並びに議員各位には一層の御理解と御支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げますとともに、議員各位に御審議をお願い申し上げます、私の市政に対する所信表明及び提案理由の説明といたします。

平成28年6月13日

西之表市長 長野 力

